

# 幼 児 の 教 育

昭 和 十 四 年 六 月



これはどうしてゐるところですかと尋ねたら、「金魚を頭に載せて散歩」と答へた。奇想天外と思ふのはおとなの考へ方で、子どもにとつては何んでもない、あたりまへのことである。散歩にはいつしよに往きたし、金魚のそばには居たし、と言つて、金魚を歩かせることは出来ない。一匹づゝ抱いてゆくことも出来ない。水鉢の水のまゝ持つてゆくより外ないのは、子どもとして當りまへ過ぎる程當りまへのことである。又、その大きい硝子の水鉢を、手にぶらさげてはゆけない。水をこぼしたら金魚に可愛そうだ。そこで、頭の上に載せて歩くのは、奇想でも、ふざけてもない、それこそ當りまへの中の當りまへである。

それを、止めもせず、笑ひもせず、いつしよに散歩してゐるお父さんとお母さんも大まじめである。わたし達も此繪を、まじめに見たい。——子どものどんな繪の場合でも。(倉橋惣三)